# 特定非営利活動法人
# 湘南 NPO サポートセンター
# 平成 31 年度 事業報告書

2019 年 4 月～2020 年 3 月

(平成 31 年 4 月 1 日より令和 2 年 3 月 31 日まで)

**～一人ひとりが自分らしく暮らせるまちに～**

わたしたちは、組織や制度の壁を越え、人々がつながり共に行動する市民社会をつくるため、NPO・自治体・企業・大学等と連携し社会課題・地域課題の解決に向けて活動しています。

湘南NPO
サポートセンター

［平成 31（2019）年度事業報告書］

# 事業総括

理事長　坂田　美保子

平成３１(2019)年は５月に元号が変わり、新しい時代に期待が寄せられる幕開けとなりました。
平塚市との協働という形で運営してきたひらつか市民活動センターは、平成 31 年４月１日、平塚市の中心商店街の一角にある見附町に、崇善公民館との合築で建設された建物の２階に移転しました。その前日に盛大に行われた開設記念式典では、崇善公民館を利用される崇善地区の皆様と一緒に開館を喜ぶと共に見附町の再開発による新しいまちづくりに向けても手を携えて行くことになりました。

平塚駅南口で約 15 年間運営されてきたセンターが西口へ移転することは既に多くの市民活動団体に周知されていましたが、実際に移転してみると利用される団体の顔ぶれも変わってきました。新しい土地で改めて市民活動の重要性を伝えること、市民活動団体の活動をサポートさせていただくことはそれなりにハードルも高く、新施設の広報を含めてスタッフが気持ちを合わせて取り組むべき課題でした。
１年が終わろうとする令和２年２月に実施した市民活動団体向けのアンケート調査からは、団体活動の現状を掴むことができ、またセンターの協働運営に対しては 90%以上もの団体から高い評価をいただくことができました。これも一重に関係各位のご理解ご協力のおかげと感謝する一方で、一生懸命取り組んでくれたスタッフやメンバーに対しても深く御礼申し上げます。

また、兼ねてより平塚市社会福祉協議会との連携を模索してきましたが、災害支援をテーマに連携協働していくことが決まり、新たな一歩を踏み出すことができました。そこには夏から秋にかけた大型台風による風水害が起因となっています。より多くの関係者が連携することでいち早く復興につなげるための土台作りが始まりました。

神奈川県及び平塚市、平塚市内各地域団体との連携による「共生社会仕組みづくりに向けた外出支援モデル事業」では、地域の移動の問題を地域の方々が支え合い助け合う中から事業化を進めるために協議検討してきました。今後は２地域での実施が予定されています。

そのような中、令和２年２月末からの新型コロナウイルス感染症の拡大は世界中を震撼させ、社会活動や経済活動が機能しなくなるという最悪な状態となりました。NPO・市民活動団体も活動の自粛・停止による収益の減少はもとより、団体の維持・存続が危ぶまれているケースも見受けられるようになりました。団体支援につながる情報の収集・提供をはじめとして出来ることは何かを模索し対応してまいります。

法人に対する信頼度及び認知度は年々向上していますが、法人の健全経営を図るため人的資源を最大限に有効活用する体制基盤づくりを進めていきたいと考えています。これまで以上に会員の皆様、並びに関係各位の変わらぬ温かいご協力ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

［事業運営に関する事項］

特定非営利活動に係る事業

（１）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・内　　容　　市民活動団体や地域活動団体の相談や援助の活動及びコーディネート、情報交換と交流の場づくり、講演会の開催、内部研修

・日　　時　　随時
渋田川桜まつり（4/7)、河内川あじさいまつり(6/9)、市民ライター講座（6 月）
交流会「NPO・市民活動を支える人たちとゆるゆる語る会」(9/18)
市民活動センターまつり(11/24) 、交流会（12/14）老犬セミナー（講座）(2/9)
寄附金配分依頼事業（5 月~3 月）
プロボノチャレンジ KANAGAWA2019（4 月~3 月）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　7 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体等

・支　出　額　　1,643,472 円

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

・内　　容　　第７回ひらつか地域づくり市民大学の開催（地域づくりの人材育成）

・日　　時　　7 月 27 日、 8 月 24 日、 9 月 21 日、10 月 19 日、11 月 16 日、12 月 14 日（全 6 回）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　7 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　　352,706 円

ウ　平塚市との協働事業：ひらつか市民活動センター協働運営事業

・内　　容　　平塚市との協働による「ひらつか市民活動センター」の運営事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　10 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等

・支　出　額　　15,750,224 円

エ　共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業（神奈川県）

・内　　容　　旭南地区、須賀新田地区、土屋地区、湘南 NPOSC、平塚市及び県と連携・協働し、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現に向けた「外出支援」事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内
・従事者人員　　４人
・対　象　者　　旭南地区、須賀新田地区、土屋地区住民の皆さん
・支　出　額　　1,835,036 円

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業
ア　メディア事業
・内　　容　　市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの相談・制作。WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作。
・日　　時　　通年
・場　　所　　平塚市内及び近隣市町村
・従事者人員　　5 人
・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等
・支　出　額　　2,549,536 円

イ　スマホ・タブレットサロン
・内　　容　　マンツーマンによる IT 支援
・日　　時　　毎週木曜日 10:00~12:00
・場　　所　　ひらつか市民活動センター
・従事者人員　　５人
・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体
・支　出　額　　78,302 円

ウ　ローカルメディア:ひらつか地域魅力ネットの運営
・内　　容　　市内の魅力的な人・場所・コトを取材し、記事を HP に掲載
・日　　時　　通年
・場　　所　　ひらつか市民活動センター
・従事者人員　　10 人
・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者
・支　出　額　　6,961 円

（３）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
　実施しなかった。

尚、事業の詳細は【別紙】に記載する。

【別紙】

（1）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

●相談及び助成金に関する諸手続き等の支援

市民活動団体の相談（団体運営に関すること、NPO 法人の設立、申請書・報告書の書き方、事業計画の立て方、事業の進め方、助成金の申請サポートなど、団体からの相談に適宜対応、アドバイスを行った。特に NPO 設立に関することと助成金申請についての相談が多かった。※ひらつか市民活動センターの相談件数含む。

●市民活動団体及びメンバー間の交流・情報交換の場づくり

本年は、渋田川桜まつり（4/7)、河内川あじさいまつり(6/9)、市民活動センターまつり（11/24）に出店した。地域の枠を超えた情報交換や交流を通して互いの理解を深めることができた。

交流会(12/14)では、会員同士の交流を促進し互いの労を労った。

＜講演会の開催＞

●「市民ライター講座」6 月計 3 回の連続講座

タウンニュース社の高田氏を講師に迎え、取材・編集・原稿作成の基本を学んだ。

参加延べ人数は 28 名、それぞれが学んだことを活かして記事を作成・公開した。スタッフの人材育成研修として、取材のコツから編集構成の秘訣を学び、市民活動センターが行なう情報発信にも欠かせないメディアリテラシー・コンプライアンス等もこの講座で習得できた。

●「NPO・市民活動を支える人たちとゆるゆる語る会」9 月 18 日(水)18:30〜20:30

認定ＮＰＯ法人シーズ・市民活動を支える活動を進める会前代表理事の松原明さんをゲストにお迎えし、NPO 法から 20 年が経った今、中間支援組織に求められるものは何か？を話し合いながら意見交換した。当日は東京から静岡まで 18 名の方にお集まりいただき、白熱した議論が交わされた。中間支援関係者による活発な意見交換は会員のスキルアップ、モチベーションの向上にもつながった。

●「老犬セミナー」2月9日（日）10:00～12:00

「ひらつか地域魅力ネット」に掲載した記事が118名を超えるシェアをいただいたことが発端となり、ニーズに対応するため本セミナーを企画した。関心の高さを表すように、平塚市内や近隣市町のみならず、横浜、逗子、埼玉県和光市など遠方からもご来場いただき43名もの参加をいただいた。

●寄附金配分依頼事業（R1年5月~R2年3月）

市内在住の方から子ども支援活動をしている団体に寄付をしたいとの申し出があったため、寄附金配分事業として委託される形式をとって行った。合計12団体へ寄附金を配分した。

各団体は寄附金をいただけたことで活動できた成果を報告していただき、寄附者へ報告することが出来た。また寄附者からは12団体からの報告から、有効に使われたことへの感謝の言葉を書面にてお送りいただいた。

●プロボノチャレンジKANAGAWA2019（神奈川県ボランタリー基金21事業）への参画（R1年4月~R2年3月）

県内6つの中間支援組織と連携して本事業に支援者として参画した。平塚からはNPO法人きしゃポッポさん、NPO法人ぜんしんさんが支援先団体としてエントリーし、プロボノワーカーから課題解決の提案を受けることが出来た。いずれも団体の組織基盤強化につながったと満足度も高く、1年間にわたって伴走支援を行ったことで法人としてのミッション達成に寄与できた。

●町内福祉村ひだまりの里　交流部会事業「吉沢寺子屋」の運営サポート

9年目を迎えた寺子屋の運営サポート及び情報発信の支援：寺子屋のブログ（てらこっ子ブログ）の更新事業を行った。

安定的な運営ができるのは平塚地区BBS会（神奈川大学生・BBS会OB、OG）の継続的な支援と寺子屋卒業生がOGとして関わってくれることが大きい。神大の移転を2年後に控え、寺子屋の今後の運営について議論を重ねている。

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

●地域づくりの担い手の育成と地域づくりへの関心を高めるため、第7回ひらつか地域づくり市民大学を開催した。公開講座を含め延べ151名の参加があった。

（主な内容）

| 日時 | 内容 | 受講者数 |
|---|---|---|
| 7月27日（土）<br>公開講座 | 第1部：講演　手をつなぎ多世代連携のまちづくりをめざして<br>講師：斎藤主税氏（都岐沙羅パートナーズセンター：理事・事務局長）<br>第2部:みんなで語ろう　これからの地域まちづくり<br>コメンテーター：斎藤主税氏<br>進　行：鈴木奏到氏（湘南NPOサポートセンター理事） | 74名<br>（関係者含94名） |
| 8月24日（土）<br>実践講座第1回 | ○自分たちの地域を見つめてみよう<br>「自分たちの地域を、将来を見つめることからの課題発見の気づき」<br>講師：宮崎道名氏（㈱カントリーラボ代表取締役） | 18名 |
| 9月21日（土）<br>実践講座第2回 | ○地域の課題を探してみよう<br>「元気事例集から学ぶ課題の共有化と解決に向けた一歩の踏み出し方」<br>講師：鈴木奏到氏<br>「自分たちの地域の実態を知り、課題を探ってみよう」<br>講師：宮崎道名氏 | 14名 |
| 10月19日（土）<br>実践講座第3回 | ○課題解決に必要なことを考えてみよう<br>「課題に対応した協働による課題解決事業、制度、窓口の紹介」<br>講師：宮崎道名氏<br>○地域の課題解決　紹介者：平塚市 | 15名 |
| 11月16日（土）<br>実践講座第4回 | ○みんなで動く仕組みをつくってみよう<br>「課題解決に活かせる人や団体等を調べて確認する」<br>グループワーク：宮崎道名氏、鈴木奏到氏 | 16名 |
| 12月14日(土)<br>実践講座第5回 | ○地域を変えていくためのキックオフ・プレゼン（修了式）<br>「課題を共有し、解決していくためのストーリをコンパクトにまとめる」<br>進行：鈴木奏到氏 | 14名 |

● 3月末「第7回ひらつか地域づくり市民大学報告書」を発行（400部）。　※別紙参照

●平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）との定例会議（毎月1回）

内容：事業の企画会議・進捗確認・運営、中長期的事業方針・目的・方向性に関する会議等

| 平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）との定例会議 | | |
|---|---|---|
| 平成 31 年　4 月 15 日 | | |
| 令和元年　　5 月 31 日 | 7 月 18 日 | 7 月 27 日 |
| 8 月 24 日 | 9 月 21 日 | 10 月 19 日 |
| 11 月 16 日 | 12 月 14 日 | |
| 令和 2 年　　3 月 18 日 | | |
| 平成 31 年　4 月 16 日　宮崎講師との打ち合わせ　～開催日までに 5 回打ち合わせ | | |

ウ　平塚市との協働事業：ひらつか市民活動センター協働運営事業

●行政提案型協働事業「ひらつか市民活動センター協働運営事業」の３年目（協働事業最終年度）を実践した。

＜３１年度のスタッフ配置＞

団体スタッフ　常勤４名、非常勤６名、計１０名　（最終年度は団体のみのスタッフで運営）

＜事業の目的＞

①市民活動センターの中間支援機能を強化するため、 団体の専門性、当事者性を活かした市民目線での柔軟な運営を取り入れる。

②将来的な民営化に向けて、これまでの運営ノウハウを着実に引き継ぐ。

＜事業の目標＞

【１年目】　相談・コーディネート機能の強化

【２年目】　情報発信・研修機能の強化

【３年目】　人材育成・ネットワーク機能の強化

＜センター事業＞

●毎月 1 回のスタッフミーティングで事業実施状況を共有した。

12 月のミーティングでは、相談ケース会議を実施した。

| 日時 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|
| | 市民活動応援講座 5 事業 | 計 58 名参加 |
| 6 月 15 日（土） | ・NPO 法人のつくり方<br>5 団体 6 名　個人 3 名　計 9 名　満足度 98% | |
| 9 月 22 日（日） | ・SNS を活用した資金調達のコツを学ぼう<br>7 団体 8 名　満足度 90% | |
| 10 月 26 日(土) | ・訴求力のある画像の撮り方<br>6 団体 9 名　個人 4 名　計 13 名　満足度 89%<br>・NPO マネジメント講座全 2 回 | |

| | | |
|---|---|---|
| 11 月 30 日(土)<br><br>12 月 21 日(土)<br><br>2 月 14 日（金） | ① ビジョンに向かってアクションプランをつくってみよう<br>6 団体 12 名　個人 2 名　計 14 名　満足度 91%<br>② プランに基づいて事業計画・予算案を立ててみよう<br>6 団体 12 名　個人 2 名　計 14 名　満足度 91%<br>NPO 法人実務講座 1 事業<br>・NPO 法人の会計＆税務個別無料相談会　4 団体 | 計 4 名参加 |
| 7 月 20 日～<br>8 月 31 日まで<br>9 月 23 日（日） | 市民活動ボランティア啓発事業 2 事業<br>・夏のユースボランティア体験 2019<br>49 名（中学生:14 名、高校生:33 名、一般:2 名）<br>・市民活動センターまつり　参加人数 1,600 名<br>IT 講座、IT 相談会 4 事業<br>(NPO 法人ひらつか IT サポートとの共催)<br>・HP 作成講座、Excel 講座、パソコン相談会、パソかふぇ | 計 1,649 名<br><br>計 270 名 |
| 4 月 24 日（水）<br>6 月 12 日（水）<br><br>8 月 21 日（水）<br>10 月 30 日（水）<br>12 月 11 日（水）<br>2 月 26 日（水） | 団体交流事業 6 事業<br>まちづくりミーティング：コミュ☆カフェ<br>・「シニアの地域活動マッチング交流会 参加者:25 名<br>・「こんな市民活動センターまつりにしたい　アイディア持ち寄りミーティング」参加者:10 名<br>・「カードゲームで学ぶ SDGs」参加者:36 名<br>・「どうなっているの？今どきの婚活事情」参加者:5 名<br>・「若者まちづくりミーティング」参加者:9 名<br>・「ボランティア活動マッチング交流」参加者:24 名 | 計 109 名 |
| 2 月 00 日（金） | 企業と NPO の交流ミーティング（第 1 回平塚市みんなのまちづくり事例表彰式と同時開催）、 | |
| 3 月 28 日（日） | 利用団体交流会（新型コロナウウィルス感染拡大防止のため中止） | |

＜相談に関する取り組み＞

・相談件数 357 件（※264 件）

（H28 年度 176 件、H29 年度 211 件、平成 30 年度 264 件）

前年比 93 件増、135%

・今年度は相談シートの項目を整理し、フォロー件数も数値化した。

・新型コロナウィルス感染対策のため、2020 年 3 月は利用停止の措置となった。従って、平成 31 年度は 11 か月（3 月 1 日まで）、30 年度は 12 か月の件数である。

※「専門相談コーナー」

専門相談コーナーをより充実させるために、専門的知識を持つ団体の力を活用して、専門相談スタッフを新たに配置して実施した。

| 項目 | 市民活動 | 一般団体 | その他 | 合計 | 前年差 | 増減率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ボランティア関連 | 3（1） | | 26（29） | 29（30） | ▲1 | 97% |
| 市民活動団体を知りたい | 5（6） | 1（1） | 33（26） | 39（33） | 6 | 118% |
| センター登録 | 0（1） | 2（1） | 86（43） | 88（45） | 43 | 196% |
| 団体設立に関する | 2（1） | | 11（8） | 13（9） | 4 | 144% |
| NPO 法人設立 | 2（1） | | 5（6） | 7（7） | 0 | 100% |
| 助成金に関する | 18（10） | | 1（3） | 19（13） | 6 | 146% |
| 組織運営に関する | 8（23） | | 5（7） | 13（30） | ▲17 | 43% |
| 協働に関する | 2（0） | | | 2（0） | 2 | --- |
| その他 | 33（16） | 3（1） | 50（40） | 86（57） | 29 | 151% |
| フォロー | 27（12） | | 34（28） | 61（40） | 21 | 152% |
| 合計 | 100(71) | 6（3） | 251（190） | 357(264) | 93 | 135% |

※（　）内は H30 年度実績。一般団体は 30 年度から集計。

※専門相談（内訳：団体運営・会計・税務は組織運営に関する相談に含まれる）

| 項目 | 件数 | 比率 |
|---|---|---|
| 団体運営 | 1 | 1.5% |
| 法人設立 | 6 | 9.1% |
| 助成金 | 11 | 16.7% |
| 会計・税務 | 8 | 12.1% |
| 連携・協働 | 1 | 1.5% |
| その他 | 13 | 19.7% |
| フォロー | 26 | 39.4% |
| 合計 | 66 | 100.0% |

※平成 30 年度との比較

・見附町移転の影響か、市民活動センターへの登録相談が急増した（196%）

・助成金に関して、前年比 146%と増加し、19 件中 11 件が専門相談での対応となっている。

・組織運営に関して、13 件中 8 件が会計及び税務に関する相談であり、全て専門相談で対応した。その他は、組織継続可否・NPO 認証等の相談である。

・協働事業についての相談は少なかったが、後述のアンケート結果をみると 50%以上が協働を考

えている事から、潜在的なニーズは高いと思われる。

・フォローについては、前年比 152%となり複数回の相談が増加傾向にある。主な項目としてフォロー61 件中助成金 12 件・組織運営 8 件・市民活動に関する事項が 7 件となっている。

・専門相談に関するフォローは、26 件中連携・協働が 10 件、情報発信 6 件である。

※市民活動団体の現状及び協働についてのアンケート実施　12 月

・NPO 法人等市民活動、380 団体にアンケートを送付し 174 団体から回答を得た（回答率 45.8%）。アンケート結果より、団体の課題・協働についての意識・協働に力をいれるべき分野・活動センターへの評価等々非常に興味深い結果となった。今後、センターとしてもそれらニーズを踏まえ情報発信等の基地としての機能を強化し、市民活動の活性化のために注力を注いでいきたい。

・協働運営については 90%が満足・ほぼ満足との結果となり一定の評価を得られたと考えられる。尚、調査結果は 3/28 団体交流会で報告する予定であったが中止となったため、暫定的に報告書の送付のみとした。

<スタッフの育成>

【センタースタッフ研修】

外部研修：神奈川県の相談員研修、NPO 新任スタッフ研修、NPO と行政の対話フォーラム、NPO 会計講座、NPO と企業のパートナーシップミーテイング等出席

内部研修：毎月のスタッフミーティング、新人スタッフ内部研修、自己評価シート及び個人目標設定シートの作成と活用、個人面談等、実施

プロボノチャレンジ KANAGAWA2019 への参画

：団体ヒヤリングやコーディネートの手法を学ぶとともに、ワークシート作成、事業の進行・確認・成果評価の仕組みを学んだ

<ネットワーク機能の強化>

・専門相談コーナーの新たな取組みは、団体間のネットワークを活用した。団体のニーズに即した相談体制により、これまで以上にきめ細かな相談事業が実施できるようになった。

・市内の地域活動団体、大学（東海大・神奈川大）、市内事業者、県内の中間支援組織、法人が持つ多様なネットワークにより、団体支援につながるマッチング（人・団体・情報のコーディネート）及び事業運営が定着しつつある。

・平塚市社会福祉協議会とのネットワーク構築

災害前・時・後の連携体制の構築に向けて協議が始まった。継続し取組むことで平塚市の災害救援体制への協力を推進していく。

ボランティア募集情報誌に社協の協力を得て団体情報を掲載した。

<移転後のセンター運営体制の構築>

・センター登録団体も 1 階の公民館が利用できることになり、それと並行して公民館利用団体もセンターを利用できることになった。公民館を利用する団体及び利用人数については、お互いに数

値を共有できるよう公民館に協力を要請した。

1、センター利用団体数：5,188
2、崇善公民館を利用したセンター登録団体：187
3、センターを利用した公民館利用団体：9
合計 5,384 団体

・利用団体からは好評をいただいており、相互利活用が上手く進んでいることがわかる。
・崇善公民館落成記念式典、センターまつり、崇善公民館まつり（新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止）などを通じて、崇善地区との融合を進める一歩を踏み出せた。
・担当課である協働推進課が本庁へ移動し、基本的には団体のみでセンターを運営することになった。これまで協働推進課頼みで進められていたセンター運営（事業の実施、施設管理、消耗品の調達等）を団体のみで行うことになり、スタッフも不慣れな中で試行錯誤だったが、徐々に体制が整理された。段階的に移行を進める中で、これまでの仕事のやり方を変えるということは難しいと感じた。
・団体と協働推進課との連携・協働は、月に一度のミーティング以外でも適宜情報交換しながら互いの役割を認識しつつ進めることができた。

エ　共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業(神奈川県委託事業)

●神奈川県及び平塚市、土屋地区自治会連合会・旭南地区協議体・須賀新田シニアクラブと協定を結び、外出が困難な方々を住民の支え合い助け合いで支援するという事業の初年度。
須賀新田シニアクラブは自主的に外出支援事業を開始し 1 年が経過。活動に必要な情報や消耗品等の購入をサポートした。土屋地区では昨年実施したアンケート結果を元に高齢者の外出支援について検討、令和 2 年には 2 つの取り組みが始められる予定となった。旭南地区では 7 つの自治会の協力を得て住民アンケートを実施,今後の進め方について意見交換を行っている。

（2）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業

●市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの作成、WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作を行った。この活動を通して市民、市民活動団体、地域活動団体の組織基盤強化と団体の自立に向けての後押しをすることができた。定期的な刊行物などの依頼が増加し、不定期ながら繰り返し依頼していただけるクライアントも増えつつある。

●メディア事業会議　　クライアント様と適宜内容に応じて打ち合わせを行った。

【実績】: 女性防災クラブ平塚パワーズ様、平塚市自治会連絡協議会様、平塚のら猫を減らす会様、桂川・相模川流域協議会様、横内中学校 PTA 様、平塚市 PTA 連絡協議会様、浜岳中学校 PTA 広報委員会様、吉沢地区地域運営協議会様、八幡商店会様、株式会社　吉川商事様、のぞみ会神奈川支部様、平塚市介護の会はまゆう様、伊礼鍼灸院様、

市議会議員様

イ　スマホ・タブレットサロン

●毎週木曜 10 時～12 時、市民活動センターを利用して IT 支援（スマホ・タブレット・PC の使い方についてマンツーマンによる支援を行った。

※サロン開催回数４７回、参加延べ人数１０９人、講師として５人が対応した。

IT スキルの高いシニア会員が中心となって 3 年目の継続開催。サロン形式でほぼ個別対応。受講生はリピーターが多く「自分のペースで、知りたいことをピンポイントで教えてもらえる。」などの評判あり。新センターで、定着してきた。（３月はコロナウィルス対策により開催中止）

ウ　ひらつか地域魅力ネットの運営

●地域で活動する魅力ある人・団体・場所・お店等を取材し、Web サイトへ掲載した。平塚の魅力発信を行うとともに市民活動・地域活動の情報発信の場、交流の場として活用していただくことを目的としている。

●5・6 月に開催した「Web ライター養成講座」で取材・編集の基礎を学んだメンバーが講座修了以降に 10 本の記事を掲載、令和元年度 4～3 月は合計で 23 本の記事を投稿する事ができた。

ホームページの記事から直接の共有は最も多いもの（人も愛犬も最後まで幸せな毎日を～老犬ホームオレンジライフ湘南～）で 118 を記録した。FB アクセス数も増加し、200 以上にリーチする記事が増えた。

●NPO 法人森ノオトさん主催事業「ローカルライター養成講座」第３回（11 月 14 日）で、当会 WEB サイトの紹介をさせていただいた。

[法人運営に関する事項]

（１） 会員

●会員数

令和２年３月末日時点　　正会員 37 名　賛助会員 12 名　アドバイザー ２名
ボランティア ４名　団体会員 １団体　　合計 56 名

●第６回定期総会（社員総会）

日時：令和元年５月 19 日（日）15:00～17:00

会場：ひらつか市民活動センター

参加者：22 名

（２） 会議

| ●理事会 | | |
|---|---|---|
| 第１回　４月 20 日 | 第２回　５月 19 日 | 第３回　９月８日 |
| 第４回　11 月９日 | 第５回　２月 15 日 | |
| 議題：総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、平塚市提案型協働事業<br>次年度組織体制、役員人事、等<br>●臨時理事会　５月 19 日、６月４日（寄附金配分依頼事業について）<br>10 月９日、11 月 28 日、３月 30 日（人事について） | | |

| ●定例会 | | |
|---|---|---|
| 第１回　４月 11 日 | 第２回　５月９日 | 第３回　６月 13 日 |
| 第４回　７月 11 日 | 第５回　８月８日 | 第６回　９月 12 日 |
| 第７回　10 月 10 日 | 第８回　11 月 14 日 | 第９回　１月９日 |
| 議題：ひらつか地域づくり市民大学、ひらつか市民活動センター、地域魅力ネット編集会議<br>イベント企画、平塚市提案書協働事業、共生社会仕組みづくり事業等<br>※2 月～3 月は、コロナ対策のため定例会は中止、毎月会員向けに発行する「MAIL NEWS」にて事業の進捗状況や課題について発信し情報を共有した。 | | |

（３）各団体・行政・他機関等委員の受任

| |
|---|
| 平塚市社会教育委員(1 名) |
| 平塚市市民活動推進委員会委員（1 名） |
| 平塚市地域教育力ネットワーク協議会委員（１名） |
| 平塚市中央公民館運営委員(1 名) |
| 平塚市青少年指導員(２名) |
| 平塚市横内公民館運営委員（1 名） |
| 平塚市横内中学校評議員（1 名） |
| 綾瀬市市民活動応援補助金（きらめき補助金）選考委員会委員 (年３回)（1 名） |

●事業提案

| | |
|---|---|
| 令和元年 10 月 6 日（土） | 神奈川県ボランタリー基金 21　団体成長戦略事業エントリー（不採択） |

４．組織（役員）体制　令和元年度末時点

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | 坂田　美保子 | 副理事長 | 氏家　真美 |
| 理事 | 鈴木　奏到 | 理事 | 梶田　佳孝 |
| 理事 | 木村　美江子 | 理事 | 菅野　由美子 |
| 監事 | 徳永　宣明 | | |
| アドバイザー | 二宮　雄岳　氏 | アドバイザー | 斉藤　進氏 |

以上